



プレスリリース

令和5年度草の根・人間の安全保障無償資金協力：

シュニク州カブチュット村上水道設備整備計画 供与式の実施

エレバン：令和7年1月29日

令和7年1月29日、草の根・人間の安全保障無償資金協力「シュニク州カブチュット村上水道設備整備計画」（供与限度額：130,147米ドル）の供与式が、カジャラン市役所で開催されました。本式典には、青木豊駐アルメニア日本国大使、マンベル・パラマジヤン・カジャラン市長が出席したほか、本事業関係者や地元住民等が参加しました。

本事業は、同村に上水道を設置するため、近隣を流れる川の水を各家庭に供給する配水管（導水管：1,320m、配水管：1,190m、全長：2,510m）を新設することを目的としています。本事業の実施により、生活に必要な水を常時安定的に利用することが可能となり、日常的に水汲みに従事する女性の経済的自立や生計向上を促進するとともに、ナゴルノ・カラバフからの避難民（6世帯）を受け入れが可能となります。従来、同村住民は自宅から約300～900m離れた場所まで水汲みに行かなければならず、特に女性にとって大きな負担となっていました。

マンベル・パラマジヤン・カジャラン市長は「日本の支援を頂いたカブチュット村では、今や村民がいつでもおいしい水を飲む水道も設置され、村の生活が大きく改善されました。カジャラン市では水道や下水、電気等のインフラが脆弱であり、課題は少なくありませんが、日本の支援は私たちに勇気づけるものでした。日本政府・日本国民の皆様に対し、心より感謝しております。」と謝辞を述べました。



関係者に祝辞を述べる青木大使



供与された水道から水を飲む青木大使



関係者からの歓迎を受ける青木大使



供与された導水管を視察する青木大使